



民主党 衆議院議員

岡田 かつや 後援会 会報

NEWS LETTER

vol. 34

ニュース・レター 2013 Winter



直球、健在。

私の主張 MY OPINION

衆議院議員 岡田 かつや

民主党が野党に戻って1年、厳しい時期が続いています。高支持率の安倍政権や巨大与党のもとで、民主党の存在は小さくなり、報道されることも少なくなっています。民主党は再建できないのではないのかとの声もあります。

安倍自民党が成果を上げるなら、日本のために歓迎すべきことです。ことさらに足を引っばるようなことはすべきではありません。しかし、約束が果たせず、結果が出せないときには、国民の皆さんに別の選択肢が用意されなければなりません。いまの野党の中で自民党に代わって政権を担えるのは民主党しかないと私

は確信しています。

必要以上に与党との違いを強調したり、数合わせだけの野党再編に走ることは、国民の信頼を取り戻すことにはなりません。民主党の政治家や候補者が地元を歩き、人々の話に真剣に耳を傾けること、国会で安倍政権の問題点についてしっかりと議論を重ねること、こういった地道な努力の積み重ねが、明日につながるのだと思います。

民主党を再建することは民主党のためではなく、日本の政治のために必要なのです。この信念のもと、日々全力投球しているところです。

国会



▲予算委員会で安倍総理と論戦

私はいま予算委員会に所属しています。安倍総理と本格的に論戦したいと思ったからです。10月22日に質問に立ち、選挙制度改革、集团的自衛権、日韓関係などについて議論しました(詳細はホームページをご覧ください)。

35分間の質問を終えての私の感想は、残念ながらほとんどかみ合わなかったというものです。聞いたことには正面から答えず、聞いてもないことについて長々と答弁されてしまいました。

私の方も限られた時間の中で、議論したい点が多過ぎたために、中途半端なやり取りになってしまったと反省しています。次回は更に十分な準備をした上で、いいやり取りになるように努力したいと思います。



▲党政治改革・国会改革推進本部長として党の考え方をとりとめ

思うように議論は進展しませんが、実は3人には平成2年初当選、ともに政治改革に取り組んできたという共通点があります。最後は党利党略を超えて、合意できると信じています。

県連



▲志摩市国府の堤防を視察

民主党三重県連代表として、県内の3区以外の地区の視察、またその地区の地方議員とともにミニ集会なども開催しています。

5月には志摩市の国府の堤防を視察。10月には東紀州(熊野市や尾鷲市)で6カ所座談会を開催し、過疎の漁村や山村にお住まいの方々との意見交換をしました。地域性に富んだご意見も伺えました。三重県は広く、多様性に富んでいると実感しています。これからも県内いろいろな所へ足を運びたいと思っています。

岡田 かつや 活動報告

ACTIVITY REPORT
2013.5 ▶ 2013.10

地元



▲地元企業の工場を見学

【後援会活動】

ほぼ毎週末に地元に戻り、後援会幹事会開催や地元の企業回りを精力的に行っています。幹事会は集落単位で開催し、貴重なご意見をいただいています。今後オープンセミナーや座談会も開催予定です。企業訪問では、日本のものづくりの一翼を担っている生産現場を見させていただくなど、新たな発見もありました。



▲伊勢神宮の遷宮行事「お白石持行事」に参加

【式年遷宮】

今年は伊勢神宮の式年遷宮の年です。8月25日には、正殿の敷地に白い石を敷き詰める「お白石持行事」に参加し、10月5日には外宮のご神体を新しい正殿に移す「遷御の儀」に参列しました。8年前の木曾桧の御木曳きから始まった遷宮の伝統行事にたびたび参加できたことは、本当に感慨深いものでした。



▲木曾岬干拓地の視察

【木曾岬堤防の視察】

10月28日、南海トラフ地震の津波対策のための耐震補強事業、木曾岬干拓地のメガソーラー(大規模太陽光発電所)事業、高潮堤防補強工事の現場を視察し、加藤隆木曾岬町長から進捗状況についてご説明いただきました。

Overseas Report

海外レポート



■日韓フォーラム

8月22日～24日、ソウルで開催された「第21回日韓フォーラム」に参加しました。このフォーラムは、年1回、日韓交互に開催され、両国の政治家や有識者が日韓関係について泊まり込みで意見を交わすというものです。

今回、韓国側の議長で、私が外相時代のカウンターパートだった柳明桓(ユ・ミョンファン)元外相とは、2人で朝食をとりながら、かなり突っ込んだ議論ができました。

■シンガポール

9月2日～5日、シンガポール政府の招待で同国を訪問し、リー・シェンロン首相、ゴー・チョクトン名誉上級相(前首相)、K・ジャンムガム外相らと会談しました。また、都市開発庁、医科大学、植物園なども視察し、シンガポールについて多くのことを学ぶ機会となりました。

リー・シェンロン首相は私とほぼ同年代です。いまでも何度も会ってきましたが、今回は非公式会談ということで、打ち解けた本音の話し合いができました。



▲日韓両国から多くの政治家や有識者が参加

日韓関係は現在厳しい状況にありますが、両国の関係は東アジアの平和と繁栄にとっても重要です。関係改善を目指して、これからも機会をみて訪韓したいと思っています。



▲リー・シェンロン首相と会談

激闘 参院選

7月の参院選三重選挙区では、民主党は現職の高橋千秋さんを擁立し、13年間の実績や三重を最もよく知る政治家であることを強調するとともに、安倍政権と巨大与党に対する危惧を訴えました。連合三重、県議会会派新政みえ、党県連が三位一体となり、全力を挙げて戦いましたが、結果は残念なものとなりました。

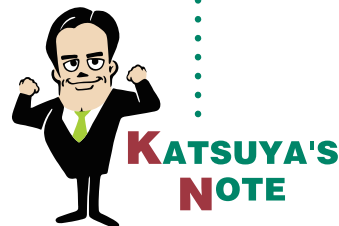
私は、選挙の責任者(選対本部長)となり、年初からはほぼ毎週地元に帰り、公示後は県内をくまなく走り回って高橋さんへの支持を懸命に訴えました。支持者の皆さんにも熱心に応援していただいたのですが、残念ながら十分に届きませんでした。選対本部長として私の力不足は明らかで、本当に申し訳なかったと思っています。



▲高橋千秋さん、野田佳彦前総理とともに街頭演説

います。

選挙戦は、相手候補に負けたというよりも、アベノミクスや自民党への追い風と民主党への逆風の中で、全体的なムードや空気と戦っていた感があり、その大きな流れを変えることができませんでした。反省すべきは反省しながら、三重県の民主党、そして民主党そのものの信頼回復と再生に全力で取り組んでいます。



KATSUYA'S NOTE

再び野党となって、早いもので1年余。いま振り返っても、3年3カ月の政権与党の時代は激動の日々でした。

リーマンショック後の世界の経済危機、そして東日本大震災。その中で、私自身、外務大臣、幹事長、副総理と大きな責任ある立場でした。特に衆参ねじれの中で、幹事長として自民・公明両党との信頼関係を築いたこと、副総理として野田総理を支えたことについては、体力と精神力の限界まで全力投球したという思いがあります。

政権をその中枢で担うことで初めて見えてきたものもあります。そもそも、副総理として毎日勤務した総理官邸5階には、野党時代一度も訪れたことはなく、ましてや、どのような仕組みの中で日本の最終意思決定がなされているのかについての知見は皆無でした。

総理大臣の孤独と想像を超える重圧、各省庁と総理官邸との連携不足、政務三役と官僚との関係、有能な官僚が能力を発揮できる仕組み作りなど、考えさせられることはたくさんありました。

いままでの貴重な経験を活かし、次回政権を担うことになった場合に備え、政権プランを練り、前向きに準備を進めることが私達の責任だと強く感じています。

スタッフから

児玉康幸 (三重)

最近岡田代議士は、週末に地元に戻ると、各地区の後援会の幹事さんとの会合(幹事会)を開いています。

幹事会は、代表幹事さんのご自宅で開催させていただく事が多いので、ときには昔の写真を

見せていただくこともあります。若い頃の代議士と一緒に写っている幹事さんを見ると、長年にわたりご苦労いただいていることに対して、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

幹事さんのご子息にご参加いただくこともあり、家族ぐるみで岡田代議士を支えていただいていることを日々実感しています。



本庄知史 (東京)

昨年末の衆院選と今夏の参院選の結果、民主党の国会議員は316人から116人となりました。そして、その何倍もの秘書が職を失い、民主党を離れました。

私は岡田代議士の秘書となって13年になりますが、ここまで来られたのは、多くの方々の支えと幾つもの幸運があったからこそです。志ある仲間たちと再び一緒に仕事ができるよう党の再建に微力を尽くすことが、民主党に留まっている者の務めであると静かに決意しています。





岡田かつやが語る国政の重要課題



1.経済はどうなる

●デフレ脱却

アベノミクスが成果を上げて、景気回復しつつあると言われている。長かったデフレからの脱却を私も期待しています。しかし、私は楽観的な見方に違和感を覚えています。景気回復は一時的なものに終わってしまうのでは、という心配です。

●超金融緩和のリスク

まず、「1本目の矢」、異次元の金融緩和は確かに円安を招き、輸出を増やし、景気回復の一助になっています。マクロで見たときに、輸出の増加が全体の景気を押し上げていることは間違いありません。

ただ、将来景気回復期には、金融緩和策をやめなければいけない。その出口のところが果たしてスムーズにできるかどうか。そこに大きなリスクが残されていることは、最近の米国の例を見ても明らかでしょう。

出口に入ったところで、金利が急激に上がるということにもなりかねません。そうなれば、市場は混乱し、過大なインフレのリスクも出てくるわけです。そのとき最も影響を受けるのは、弱い立場にある国民です。

●公共事業は選択と集中で

公共事業の増加についても、短期的には景気を押し上げています。しかし、現場では人手不足で人件費が上がり、資材価格も上がっています。そして、これを長く続けるということ

になれば、財政を悪化させることは間違いありません。「公共事業は悪だ」と言うつもりは全くありません。防災やインフラ整備をはじめ、必要な公共事業はあります。それでもあえて、民主党政権の時代には、選択と集中で公共事業予算を3割カットしました。将来世代のため、財政の健全化に重点を置いていわけです。

いまやそういったことは忘れ去られ、公共事業予算が大幅に増え、国民の中にもそれを歓迎する声があります。しかし、そういったバラマキでどんどん借金を増やしてきてしまった過去の失敗を、いま繰り返しているだけではないかと思います。

●3本目の矢こそ本命

大事なことは「3本目の矢」、規制改革や成長戦略です。民主党政権時代に道筋をつけたTPP（環太平洋パートナーシップ）協定やASEANとの経済連携協定なども重要です。1つひとついろいろな困難があります。例えば、規制改革であれば、いろいろな既得権とのぶつかり合いになりますので、多くの支持団体を持つ自民党にとっては、民主党よりも更に困難な課題です。TPPについても、国内対策を含めて逃げずにしっかりと取り組んでもらいたいと思います。

人口減少が始まった日本で経済成長していくためには、生産性を高めるしかありません。これが「3本目の矢」の意味なのです。自民党ではできない政策もあれば、自民党だからこそできる政策もあるでしょう。いい政策であれば、しっかりと後押しをしていきたいと思っています。

国民との約束です。

●法人税率の引き下げは賃上げにつながるか

安倍総理は、法人税の減税が賃上げにつながると言っています。法人税を払っているのは利益の出ている企業ですので、7割を占める赤字の企業にとっては、法人税の減税は効果がありません。したがって、そういった企業が減税を理由に賃金を上げることにはなりません。賃上げは必要ですし、法人税減税も決して反対ではありません。しかし、この2つは結びつかないのです。

恒久法人減税を5%やれば2兆円、10%やれば4兆円の財源が必要になります。その財源の手当てなくして減税をやれば、結局赤字国債の増発か、あるいは、引き上げた消費税を財源に充てるということになりかねません。

●進めぬ歳出削減

財政を立て直すために、経済成長による税収増と増税に加えて、歳出削減が必要なのは言うまでもありません。

民主党時代の事業仕分けは、予算の削減だけでなく、予算の内容を明らかにし、国民的な議論が行われたことに大きな意義があります。

私は副総理兼行政改革担当として独立行政法人の改革や公務員の定員の削減などに取り組んできました。

例えば、私が国家公務員の新規採用の6割削減を行ったときに、メディアからも相当厳しく批判を受けました。公務員定員数の30万人の1%にあたる3,000人を1年間で純減するという計画も、霞が関からは根強い抵抗がありました。しかし、そういうものを乗り越えて、強い決意で実行しました。

安倍総理を見ると、予算を使う話が多いが、削減の話はほとんどありません。厳しいことも、より真剣に進めてもらいたいと願っています。

2.財政再建を忘れるな

●消費税引き上げは着実に

私は、日本が抱える様々な困難の中で、最大のリスクは財政だと思っています。

国だけで1,000兆円を超える借金を抱えて、5年もつかどうか、10年は絶対もたないと私は考えています。いままでも大きな赤字を抱えた国は、最終的には戦争か超インフレで解決するしかなかったとさえ言われています。

日本も戦前の大きな借金を戦後に預金封鎖して、100倍近い物価上昇で借金をいわば帳消しにしたわけです。預金が消えて苦しんだのは国民でした。

もちろん、そんなことをいま繰り返すわけにはいきません。政府は、2020年までにプライマリーバランス（基礎的財政収支）を黒字化することにしてありますが、それは財政を立て直す第一歩として重要な意味があります。

財政がしっかりしなければ、社会保障も持続できません。私は強い危機感を持って、消費税増税を決めました。10%への引き上げも、経済にほとんど問題が出ない限り、実現しなければならないと考えています。

●5兆円の経済対策は疑問

消費税引き上げのショックを和らげるために、安倍さんが10月に5兆円規模の経済対策を打ち出しました。私は、規模として大きすぎるし、内容も問題があると思っています。

消費税引き上げが経済に一時的に悪影響を及ぼすことは間違いありません。ここ数年、ショックを和らげるための短期対策は必要ですが、それ以上のものを経済対策の名のもとに財源のあてなく行うべきではありません。

増税したものの、結局経済対策として法人減税や公共事業に使われてしまったのでは、何のために増税したのか分からなくなってしまいます。消費税は社会保障にのみ使うことは

忙しすぎた与党時代、そして参議院選挙で三重県中を走り回った半年が終わり、今年の秋からは多少の時間のゆとりが生まれました。これを歩くことと読書にあてています。

毎週2回のジム通いは、ここ数年続けてきましたが、運動量としてはこれだけでは十分とは言えません。そこで、毎日1万歩を目標に歩いています。しかし、その実行は国会開会中など簡単ではありません。そこで、可能な限り1時間ウォーキングマシンの上を早足で歩くことにしています。これで約8,000歩。国会

にも施設はあり、ここを活用したり自宅に簡単な機械を用意しています。録画したテレビ番組などを観ながら汗を流しています。

読書は与党時代はほとんどできませんでした。数十ページ読みながら、その後忙しくなって忘れてしまった本が、書類を片付けると出てきます。朝起きた直後は、すっきりした頭で少し難しい外交や歴史の本を、夜寝る前は楽しみながら読める本を中心に乱読しています。静かに読書しているときに私にとって最もゆっくりできる時間です。

3.エネルギー議論は冷静に

いろいろな方とお話をすると、原発について厳しいご意見をいただくことがあります。

民主党も、新たな原発は造らず、将来的には原発ゼロになるわけです。他方で、原子力規制委員会が安全だと判断したものに限って再稼働を認めるとの考えです。

これに対して、再稼働も認めるべきではないというご意見もいただきます。福島での厳しい現実を見れば、すべてやめるべきだという意見があるのは理解できます。ただ、その場合にどういった問題があるかということも、併せて考えなければならぬと思います。

石炭やガスによる発電を増やしていけば、CO2が発生し、地球温暖化問題がより深刻になります。世界の学者（IPCC）

気候変動に関する政府間パネル）はこのままでは今世紀末までに最大で気温は5℃、海面水位は82cm上昇すると警告しています。

将来の方向性としては、自然エネルギーにより多く依存することが正しいと思います。ただ、いまの技術ではコストがかかりすぎますので、電気料金が増えるという問題は避けられません。

したがって、安全性、地球温暖化、そしてコストといったことの総合判断を冷静にしないといけません。だからこそ、この問題は難しいわけです。

どの程度の省エネができて、必要なエネルギーを何で賄うかということについて、中長期的な計画を示し、多くの国民の皆さんの理解を得ながら、エネルギーの問題は進めていく必要があると思います。

4.日中・日韓関係は重要

●日韓関係を改善すべき

安倍総理は就任以来、活発に外交を展開しています。特に、海外を頻繁に訪問していることは評価できると思います。

しかし、安倍総理が言うほど、日米両国が緊密な連携をとれているかという点、必ずしもそうではないと判断しています。日本の対韓国と対中国の政策については、米国政府は懸念を抱いていると言うべきだと思います。

特に日韓関係は、民主主義や市場経済という価値観を共有し、米国から見れば、韓国も日本も重要な同盟国なので、日韓が対立している状況を何とかして欲しいというのが米国の本音でしょう。

韓国側の主張にも首をかしげることがありますが、やはりここは大局を見て、日韓関係を立て直さなければなりません。そのことに高い優先順位が置かれるべきだと思います。

安倍総理は、「ドアはいつも開いています」と、首脳会談を呼びかけていますが、従軍慰安婦の問題や安倍総理の歴史認識に対して韓国側が持っている疑念をなくす努力が必要です。総理になる前の過激な言動、総理になってからも誤解を招きかねない安倍さんの発言が制約になっているのです。

5.進めなければならない選挙制度と国会の改革

●選挙制度改革は国民との約束

衆議院の選挙制度改革については、やるべきことは2つです。1つは定数削減、もう1つは一票の格差の是正です。

定数削減は、野田総理と安倍自民党総裁との最後の党首討論で約束したことです。消費税の引き上げで国民に痛みを強いるときに、国会議員だけが特別ということは許されません。安倍総理には是非約束を果たしてもらいたいと思います。

1票の格差の問題は、民主主義の最も基本というべき重要なテーマです。住んでいる選挙区によって投票の権利に大きな格差があるということは、是正しなければなりません。300の小選挙区を5つ減らす、いわゆる「5減案」がすでに成立していますが、それでも選挙区の最大格差は1.998倍で、現時点では2倍を超えています。

2011年の最高裁判決は、47都道府県に1議席を割り振ったうえで、残りの253議席を比例配分するというやり方に対して、「憲法上の合理性がない」とはっきり判示しています。

こういう中で、民主党は比例・小選挙区ともに定数を削減し、小選挙区は人口に比例して各都道府県に議席を配分するという極めて理にかなった提案をしています。最高裁の要求に応えるのはこれしかないと思っています。

●国会を機能させるための改革

なぜ国会改革が必要か。それは国会が機能していないのではないかという疑問を多くの国民が持っているからです。実際、効率が悪く、十分な審議が行われていないというのが現状です。したがって、効率的な運営と十分な審議を車の両輪とした改革が必要です。

効率化に関しては、例えば、私が外務大臣のときは、国会審議のため海外になかなか行けず、代わって副大臣に国際会議に出席してもらったり、週末ごとに各国を訪問し、土日に外相会談や首脳との会談をしていました。

消費税の議論のときには、野田総理も週3～4日間、国会に朝から座っているというのが当たり前でした。これでは総理大臣も十分な仕事ができません。

審議の充実という意味では、例えば、最近議員立法が増えています。しかし、その議員立法が一度も審議されることなく廃案になってしまうことが非常に多いわけです。議員立法についても、国会で真摯に議論しなければいけません。

あるいは、党首討論という制度がありますが、事実上形骸化し、機能していません。そういったところについて、きちんと見直す必要があります。

国会がきちんと機能し、国民から信頼されるよう、審議の充実と効率化を車の両輪として、しっかりと議論していくという観点で議論を深めたいと思っています。

インフォメーション

岡田かつやサポーターズクラブ 会員募集!

岡田かつやの政治活動に賛同し、個人の立場で応援していただいている皆様と、『岡田かつやサポーターズクラブ』を通じて交流を深めています。下記サイトで内容をご確認いただき、ご入会いただければ幸いです。
<https://katsuya.net/supporters/>

★一般会員会費：月額 500円
★特別会員会費：月額 10,000円

★一般会員特典

*会員限定ティーパーティーの案内(注1)
*メルマガ、TV出演等の最新情報配信
*会員限定WEBサイト(掲示板への参加)(注2)
*会員証発行

★特別会員特典

【上記一般会員の特典に加えて】
*会員限定ティーパーティーの優先案内(注1)
*各種広報物の送付(不定期)
*室内ポスター進呈
*ご希望により、事務所スタッフによる国会、永田町、霞が関ご案内
*ご希望により、サイン入り色紙進呈(色紙はご用意下さい)

(注1)ティーパーティーは、継続会員(入会1年を超える会員)の方にのご案内致します。
(注2)応援メッセージの書き込みや岡田かつやをはじめ会員同士の意見交換をすることができます。

information

